

広島大学病院 エイズ医療対策室 内線5351/5581(輸血部長室)
Internet:www.aids-chushi.or.jp

ご案内 平成21年度第2回中国・四国 ブロックエイズ治療拠点病院等連絡協議会

日時：平成21年12月18日(金) 14:00～17:00
場所：八丁堀シャンテ 3階メイプル(広島市中区上八丁堀8-28)

14:05～14:55 特別講演 『HIV感染症：進歩と変化』
講師 菊池 嘉 先生(国立国際医療センター戸山病院
エイズ・治療研究開発センター 臨床研究開発部長)
座長 山田 治(山口大学大学院医学系研究科 教授)

15:00～16:10 特別講演 『MSMのHIV感染リスク行動の現状
- 性的指向と健康問題』
講師 日高 庸晴(関西看護医療大学看護学部看護学科)
座長 高田 昇(広島大学病院 エイズ医療対策室長)

公開会議となっております。
参加希望の方は、直接会場までお越し下さい。

目次：

ご案内：平成21年度第2回 1
中国・四国ブロックエイズ
治療拠点病院等連絡協議
会

ご報告：カリフォルニア州 1.2.3
サンフランシスコでの研修
を終えて
広島大学病院歯周診療科
柴 秀樹

ご報告：第3回中国四国 4
地方エイズ診療拠点病院
医師のための研修会を終
えて

ご報告 カリフォルニア州サンフランシスコでの研修を終えて 広島大学病院歯周診療科 柴 秀樹

研修の概要

平成21年10月24日～11月8日ま
での16日間、アメリカ合衆国カ
リフォルニア州サンフランシス
コ市において、平成21年度エイ
ズ治療拠点病院医療従事者海外
実地研修に参加させていただきました。

研修メンバーは、歯内療法・歯周治療を専門に
行っている私の他に、内科医1名(山口県)、脳外
科医1名(石川県)、薬剤師1名(広島大学病院薬剤
部)、口腔外科医2名(北海道)の計6名でした。

コーディネーターである小林まさみ様が、研修参
加者全員が、分野(職種)ごとに、多くのことを学
べるプログラムを作成してくれました。

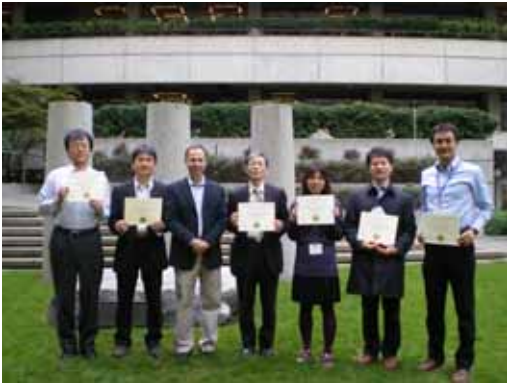


研修の主な内容を下記に挙げます。

1. HIV感染者の初診時の評価(リスクファクター
および初期HIV感染、無症候期、AIDS発症期などを
含みます)
2. HIV/AIDSの疫学
3. 抗HIV薬の特徴、種類、服薬指導、服薬の困難性
4. 開業歯科医院、大学病院歯科、公的施設の歯科
診療室のスタンダードプリコーションの実際
5. HIV感染者に対する公的サポート(emotional
supportとpractical support)
6. HIV感染者のプライマリケアの実際
7. HIV治療の実際(症例紹介)
8. 血友病患者の公的サポート(emotional support
とpractical support)
9. HIV/AIDSの口腔症状
10. HIV感染者の行動変化



これらの内容は、日本およびアメリカ合衆国両国に共通の事項から、アメリカ合衆国、特にサンフランシスコに特有の事項が含まれていました。



研修修了証書の授与後、カリフォルニア大学サンフランシスコ校(UCSF)の中庭にて写真撮影
研修のプログラムディレクターであるUCSFの教授Feldman先生と6人の研修生

印象に残ったこと

たくさんの印象に残ったことがあります、その中から2つほど記述させていただきます。

1. ホームレス・低所得者のHIV感染者に対するサポート



HIV医療において特記すべきことは、州および国からの補助金によって、医療保険に加入できないホームレス・低所得層のHIV感染者（主にゲイ・バイセクシャル、アフリカンアメリカ、スペイン系という3つのグループで構成されています。また、覚醒剤中毒者、精神的障害者も多い）に、コ・ファクターという概念を導入し、身体的（生物学的）、心理的、社会的サポートを行っている点だと思いました。ただし、歯科治療のサポートは抜歯が中心であり、不十分です。

ホームレスのHIV感染者は、歯が良くなることは自身に生きがいを与えてくれることから、抗HIV薬の提供に加えて、抜歯ばかりでなく歯を保存する治療の充実を強く訴えていました。

サンフランシスコでは、アメリカ合衆国の経済不況によって、カリフォルニア州からのHIV医療サポートに対する予算が大幅に削減されたにもかかわらず、サンフランシスコ市がその不足分を補い、保健所などで、医師、看護師、臨床心理士、ソーシャルワーカーなどで構成されるチーム医療によって、

ホームレス患者に公的サポートを継続して行っているということでした。



一方、サンフランシスコでは、医療保険に加入している納税者である中・高所得者への公的サポートは充実していません。高所得者は高額な抗HIV薬の購入が可能ですが、中所得者は、医療費の支払いが困難となり、自己破産する場合がありますと聞きました。

日本では、HIV医療のサポートにおいては、住民票のある市町村で身体障害者手帳を申請し、自立支援医療（HIV感染に対する治療に適用されます。原則1割負担ですが、所得水準により負担の上限額（月当たり0から20,000円）が設定されています）および心身障害者（児）医療助成（保険診療内の医療、各自治体によって助成額は異なる）を受けることができます。

しかし、日本においては、住民票を有していない者に対する医療サポートは充実していません。すべての国民は健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有するという（生存権）が日本国憲法、第25条第1項にあることを中学生の時に習いました。医療制度の相違は各国間ではありますが、富貴貧賤に関係なく、だれもが充実した医療の公的サポートを受けられる暖かい支援システムの確立が日本およびアメリカ合衆国においても必要であると感じました。

2. "harm reduction"、"non-judgmental"および"language neutral"

HIV感染者を含め患者に接する時には、"harm reduction"、"non-judgmental"及び"language neutral"という3つの取り組みが必要であることを習いました。

"harm reduction"とは、実害を減少させるためにより良い方法は何かと言う意味です。例えば、患者にタバコを吸うのを止めなさいと言えば、患者は不快に思うが、1日当たり吸う量を30本から15本に減らなさいと言えば患者は納得し、禁煙の方向に向かいやすい、これが、"harm reduction"であります。

"non-judgmental"とは、患者の一言のみによって、医療従事者が一方的に患者のことを判断しては

いけない。患者から多くのことを聞き出すとともに患者の背景を考慮すべきということです。”

language neutral”とは、患者に問診する時に、医療従事者が、決めつけて質問しないことである。例えば、あなたはMSM (men who have sex with men) ですかと患者に問うのではなく、男性と寝ますか、あるいは女性と寝ますかと問うのです。

患者に対して3つの取り組みへの姿勢は、患者とのコミュニケーションの際の要諦であることがわかりました。

その他

私は、広島市生まれの広島市育ちで、お好み焼きにはこだわりがあります。あっさり味あるいはロードがしっかり入れているお好み焼きから、柔らかいそばあるいはパリパリのそばのお好み焼きまで、その”taste”と”texture”は様々です。

アメリカのハンバーガーもレストランによって”taste”と”texture”は異なります。

以下の左の写真のハンバーガーは、あっさり味で硬めのハンバーグを含んでいます。一方、右の写真のハンバーガーは、肉汁を十分含んだジューシーで柔らかいハンバーグを含んでいます。



お好み焼き同様、アメリカのハンバーガーも多様である。左はあっさり味で硬めのハンバーグを含むハンバーガー、右は肉汁をたくさん含んだ柔らかいハンバーグを含むハンバーガーである。

私はアメリカのハンバーガーが大好きです。サンフランシスコ滞在中にハンバーガーを食べると決めていたので、現実となって大満足です。

学会発表(参加)をさせていただいたり、旅行が大好きなので、これまでにアメリカ合衆国の30州の都市・町、観光地を訪れています。サンフランシスコ市滞在は初めてでした。サンフランシスコは国際色豊かな都市で、特にアジア系の人種が多く存在して

いることには驚きました。私がサンフランシスコを散策しても、地元の住人の様で、違和感が全くないようでしたが、私は頻りに立ち止まって写真をとっていたので、きっとアジアからの”stranger”だったに違いありません。



左はサンフランシスコの繁華街、右は有名なケーブルカー。

終わりに

この研修は、サンフランシスコだけでなく日本でも学ぶことができる内容とサンフランシスコにおいてのみ学ぶことができる内容で構成されていたと思います。両国で学ぶことができることは、一般的な(共通)事項であり、一方でのみ学ぶことができることは、その国特有な事項に相当します。これらが本研修の特徴だと考えました。研究、臨床、教育すべてにおいて、知らないことを知ること、あるいは全く関係がないと考えていたことが、自分自身の能力の向上、発展に寄与することがあります。だから、本研修のプログラムは素晴らしいプログラムであると確信しました。

4年前、東京のACCで、3日間の講習を受けましたが、今回の充実したプログラムによって、歯科医師の立場からHIV医療全体を俯瞰できたと思います。このことは歯科治療を行っている私にとって日本では得ることができない成果と確信しました。引き続き、広島大学病院歯科において、歯科治療の必要な人に、満足できる歯科治療およびQOLの向上につながる歯科医療の提供を目標に掲げ、日々努力したいと思います。

研修への参加の機会を提供してくださったエイズ予防財団の関係各位、サンフランシスコで研修だけではなくあらゆる面においてサポートしてくださったコーディネーターである小林まさみ様および Mr. David Weisnerご夫妻そしてFeldman先生をはじめとしてサンフランシスコで講義をしてくださった先生方に厚くお礼申し上げます。

ご報告

第3回中国四国地方エイズ診療拠点病院医師のための研修会を終えて

本年度で拠点病院医師のための研修会も第3回を迎えることとなりました。開催日程は、翌日が休日日で比較的参加しやすいということもありまして、今回も三連休の中日の10月11日(日曜日)に致しました。また日常診療でご多忙の先生方にできるだけ負担の少なくなるように、前回に引き続き日帰りの研修日程と致しました。



ご多忙にも関わらず、14人の先生方にお越しいただき、講師の先生方のご協力のもと、短い時間ながらも充実した研修会を終えることができ、真に感謝致します。

今回の研修の講師には、西日本でエイズ診療にご活躍されております先生方をお招きしました。

日本の中でも最先端のHIV研究に従事されております熊本大学エイズ学研究センター病態制御分野の松下修三先生と、近畿圏のHIV診療の中心とも言える病院でご活躍されております国立大阪医療センターの渡邊大先生の二方に講義をしていただきました。



松下先生のレクチャーでは、HIV診療の基本から、HAARTの選択と副作用についてのポイント、現在の最新治療薬など多くの内容を、わかりやすく学ぶことができました。

レクチャーの後半では、長年に渡り治療歴を有する血友病患者で、耐性ウイルスの多く出現した難しい症例を提示していただきました。

渡邊先生のレクチャーでは、日和見感染症の診断と治療のポイントにつき自験例を交えてわかりやすくお話していただきました。また急性感染の特徴や見逃さないためのコツもお話しいただきました。

午後のプログラムでは、症例検討会と検査の告知に関するロールプレイを行いました。参加者が経験された問題のある症例を持ち寄っていただき、渡邊先生・藤井先生・高田先生をアドバイザーとして、皆さんで意見交換を行いました。HIV脳症の症例と急性感染期の見逃し例が提示され、参加された先生方にも良い教訓となるような内容でありました。



ロールプレイでは二つのグループに分かれ、HIV検査を勧める場面、陽性告知を行う場面の疑似体験をしていただきました。



特に告知の場面では、患者役の方への配慮や、接し方が難しかったとの声が多く聞かれました。体験された先生方は良い経験になったとのことでした。今後もロールプレイにはより長い時間をかけ、より多くの参加者の方に体験していただけるよう目指していききたいと思います。

当医療対策室では来年度も引き続き医師研修を行い、診療に携わる先生方が手軽にご参加できるより良い研修会を目指して努力していきたくております。

(エイズ医療対策室 医師 齋藤誠司)

<ご意見募集> ご意見やご希望がございましたら、エイズ医療対策室(5351/5581)までお寄せください。